

沼田小ちんこんかん

「沼田小ちんこんかん」は、沼田小学校に伝わる伝統行事で、広島県の無形民俗文化財に指定されている「沼田のちんこんかん」を基につくられています。「沼田小ちんこんかん」は、地域の方々に教えてもらいながら、全校児童で諦めずに頑張っています。

ちんこんかんは、赤い衣装を着て鬼の面を着け、小さい破魔弓を持った「大鬼」と、六尺棒を持った「子鬼」が、大太鼓や小太鼓、鉦の音に合わせて踊ります。ちんこんかんは、少しでも音がずれると、全体がバラバラになってしまう、立ち直りにくく、演技を続けることが難しくなってしまうのです。だから、ぼくたちは、ずれないように周りの音をしっかりと聞いて演技をしています。

この伝統は、最高学年の六年生が先生たちと共に下の学年にしっかりと教えて、次の代の人たちが受け継ぎます。僕は、五・六年生と大太鼓をしていて、最初はリズムやたたき方があまりわからなかったけれど、前の六年生や先生に教えてもらったり、上の学年



のいいところをまねしたりすると、段々とわかってきました。他の地域の踊りは、一人一人がすごく自信を持って大きく踊っていますので、すごく迫力があります。僕も自信を持って大きく踊り、「沼田小学校のちんこんかんはずいといな」、「僕達もあんなふうに踊りたいな」と思ってもらえるような演技をするために頑張りたいです。そして、さらにそれをずっと続けられるように、最後まで全力で取り組んで、沼田の大切なちんこんかんを受け継いでいきたいです。

わがまちに望む 夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第49回 —

命のバトン「救える命・守れる笑顔」掲げて

「献血ボランティア活動」

私たちの通う第一中学校は、「ありがとう」の笑顔があふれる学校です。そんな私たちの中学校では、生徒会がコロナ禍の令和二年八月から献血ボランティア活動を行っています。

この活動のきっかけは、赤十字血液センターの方を講師に学校で献血セミナーを受けたことでした。献血を必要とする人の経験が語られた動画を観て「今日元気で、病気やケガは突然起こる。命は自分の力だけでは守りきれない時がある。だから、献血は絶対に必要だ。」と思いました。そして、コロナ禍で献血が減少している現状を知り、「病気やケガで苦しんでいる人の力に少しでもなりたい。」そんな気持ちが強くなりました。数日後、当時の生徒会長の、「僕たちはまだ献血をすることはできないが、献血を呼びかけることならできるといいます。」という言葉が胸に刺さり、私たちは献血ボランティア活動への参加を決めました。今では活動のたびに、全校の過半数が参加します。

活動に向けて、どうすればより多くの人に献血に協力してもらえるかみんなで知恵を絞っています。

例えば、一目で献血活動だとわかるように、文化部が作ったプラカードを身体の前後に着け、自作のビラを配付しながら献血を呼びかけます。

私たちの呼びかけに答えて、毎回多くの市民の皆さんが献血してくださり、活動のたびに献血者数の過去最高を更新しています。活動は正直疲れるけど、苦しんでいる誰かの命と笑顔を守れたのではないかと思うと、うれしい気持ちでいっぱいになります。

献血は、人と人の心を繋ぐバトンのようなものだと考えています。このバトンをもっとたくさんの人に渡せるように、献血ボランティア活動を、第一中学校生徒会の伝統として続けてほしいと願っています。

